

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く(79)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(79)—

#### 1. 始めに

前報(78)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

LONDON L16C-1636

モーツアルト 交響曲第 38 番ニ長調「プラハ」

交響曲第 28 番ハ長調

コーリン・ディヴィス指揮イギリス室内管弦楽団

#### 3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

LONDON 盤ということで、DACCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。イギリス室内管弦楽団の LONDON 盤は他でも聴いていますが、同様にディヴィス指揮イギリス室内管弦楽団のモーツアルトは、明るく爽やかで歯切れのよい演奏です。

第 38 番はよく聴く機会があるものの、第 28 番はあまり聴く機会がありませんでした。第 38 番ほどのスケール感はありませんが、同様に快活でテンポのよい曲です。

#### 4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E などの総合的な効果として、第 28 番、第 38 番ともに、ディヴィス指揮イギリス室内管弦楽団の明るく爽やかなモーツァルトの演奏であることが分りました。

以上